

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
みんながやけ あくわっ子 ～自分らしく輝く子の育成をめざして～ ○夢の実現に向かって行動する子(公)(開) ○あいさつから 輪を広げる子(徳) ○工夫して 学び続ける子(知) ○わたしもあなたも 命を大切にする子(体)	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
〈自己有用感〉 〈思いや考えを表現する力〉 〈相手のことを受容する力〉 〈自己決定する力〉 〈基本的な生活習慣をつくる態度〉	具体化した資質・能力 自分を大切にする心 自分のよさを見つける力 感じたことを言葉にする力 多様な考えを受け入れる力 主体的に取り組む力 規律正しい生活をおくる力 約束や決まりを守る力
中期取組目標	
○自分たち一人ひとりが大事にされていると実感できる学校づくり ・子どもたちが、あいさつをもとに主体的に他者とかかわり、自他のよさを大切にしたい、自己有用感を高める教育活動を行う。 ・子どもたちが、なりたい自分を意識し課題を見出し解決して自分らしく輝くために必要な資質・能力を育む教育活動を行う。 ・教職員が、やりがいと働きやすさを感じ、生き生きと学び続け教師力や組織力、教育力を高められる学校づくりをする。 ・小規模校の強みをいかし、学校評価をもとにPDCAサイクルで日々の教育活動を改善し、子どもにとって魅力ある学校づくりをする。 ・学校と家庭、地域、関係機関が、連携・協力する学校づくりや学校統合を見据えた信頼される学校づくりをする。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①自分の考えや思いを堂々と表現できる子どもを育成するために、TTや少人数指導を取り入れて個別最適な学びや特別支援教育・協同的な学びを推進する。②自ら問いを見出し、仲間とともに高め合う日々の学習を実現することで、学力の向上を図る。③学校統合を視点にカリキュラムマネジメントを図る。
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1) 令和4年度実施の学力・学習状況調査から全ての学年において、学力の平均が市平均よりも低い。日頃の様子から授業中は理解できているようでも、時間が経つと忘れてしまう傾向が強いと感じてきた。しかしながら、重点研究での推進もあり、少しずつではあるが、算数科への学習意欲の高さと学力の伸びが見られてきている。同時に、基礎的・基本的な学力の定着と語彙力の乏しさに課題があるととらえている。</p> <p>(2) 校内重点研究の取組から令和4年度も、①『自ら問いを見付ける』ために、必要感をもたせ、問題場面から自分で課題を見つける授業づくりを軸に算数科で研究を進めてきた。そこから、②『仲間と共に高め合う』として、他者とかかわって課題解決に向かうことで、意欲をもって最後まで取り組んだり、考えの幅を広げたりすることから、児童が達成感を感じ最後まであきらめずに取り組む経験を積めるようにした。児童の姿容としては、授業に対する意欲の高まりが見られた。他教科では、音楽科や図工、体育科などの教科への学習意欲は高いが、国語科・理科・社会科などは学習意欲にばらつきがみられる。その背景には、語彙力の乏しさがあると考える。語彙力が乏しいために、問題場面を把握できなかったり、自分の考えをうまく表現できなかったりしている。</p>

今年度の目標
主体的に学習活動に取り組み、自信をもって自分の思いや考えを表現する子どもの姿を目指して～二校の特色や良さを生かしたカリキュラム編成～

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○統合校の教育課程作成 令和6年4月に、いずみ野小学校との統合を控えている。様々な面での二校間での調整がなされる予定だが、両校の児童の実態や教育課程に関して綿密な情報共有を行っていくことになる。重点研究の主たる活動を、いずみ野小との統合校の「ぐるぐる」及び教育課程編成とし、作成の計画を組んだ。事務的に二校のカリキュラムを統合していくのではなく、各教科・領域において担当の教職員が、阿久和小児童の強み・課題を意識して、いずみ野小とのカリキュラム編成に臨む。二校で計画的に教育課程を作成していく中で、お互いの学校が今まで力を入れていた活動や児童のよさなどを取り入れた教育課程を作り上げる。 〈作成するもの〉 ・統合校の教育課程全体を通じて教科等横断的に育成を目指す「資質・能力」のイメージ「ぐるぐる」 ・教科・領域ごとの年間単元配列、及び学年ごとの年間指導計画 ・教科の各単元目標 ・その他、食育の「食育目標」や視聴覚の「情報教育体系表」などすり合わせの必要なもの
下半期 ○校内授業研究の充実 次の方法で、6月から校内の授業研究を進めるが、下半期においては児童や学級集団の成長も考慮して、より目指すべき姿に近づける指導や助言になるよう努める。 〈研究方法〉 ・低・中・高ブロックで、身に付けさせたい資質・能力の何を柱にするか話し合い、ブロックテーマを設定する。(4月) ・6～12月の期間に、互いの授業を見合う。授業者が明示した参観のポイント(ブロックテーマに則ったもの。手立てや発問、流れ、教材、予想される児童の姿など、参観の視点を示したものを。)を中心に授業参観をする。授業を参観した者は、感想や質問、助言などを授業者に伝える。 ○統合校の教育課程の最終調整、確認 ○統合校での学びの充実に向けて ・二校間での学びのルールのすり合わせをしておく。ユニバーサルデザインの観点からも、二校の共通理解が必要な部分を明確にしておく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①授業研究や年1回以上の授業公開を通して特別の教科「道徳」の授業力を高めることで児童の道徳性を高めるとともに、自他を大切にすることを教育活動を通して人権教育を推進し児童の人権意識を高めることで、豊かな心の育成を図る。②年2回以上のYPAアセスメントを通して実態や変容に合った指導・支援をして、児童の安心感や所属感を高める。③栽培活動やたてわり活動を充実させて、相手の立場や気持ちを大切にしようとする意識や自己有用感、人権意識を高める。
担当	児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況
(1) 豊かな心に関わる児童の実態 素直で元気な児童であるが、複雑な家庭事情や経済的な困難を抱えている児童が多い。家庭でのかかわりだけでなく、横浜一の小規模校という面からも人とかかわりが狭く、語彙が乏しく、気持ちを上手に表現することが難しい児童もいる。また、生活意識調査の結果から、全体として学年が上がるにつれて自己肯定感が低くなる傾向がある。また、朝食を食べていない、失敗することに抵抗がある児童も学年が上がるにつれて多くなっていることが分かる。
<p>果から、児童の支援に役立てたりしてきた。また、横浜プログラムを実施し、学級経営に生かせるようにしてきた。さらに年間を通じてたてわり活動を充実させ、高学年は必ずリーダーの役割を担うことで自己有用感を高められるよう、様々な場面で活躍の場面をつくってきた。</p>

今年度の目標
『メタ認知』に対する取組を実施し、自他を大切に自分自身を肯定できる子どもの姿をめざして

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○学校保健委員会にて年間を通じて『メタ認知』について取り上げる。 ・講師を招き、研修会を行い、指導者側の知識を深める。 ・メタ認知の方法やしつけを知った上で、あくわっ子に適した取組を探り、実施する。 ○YPAアセスメントを実施し、児童の実態をつかむ。 ・6月に第1回のアセスメントを実施する。(チャレンジフェスタの後) ・横浜プログラム実施の際は、メタ認知につながる内容を意識する。 ○たてわり活動の充実 ・年間を通じてたてわり活動を実施できる計画を立てる。(チャレンジフェスタ・集会・にこっど清掃・栽培活動など) ○道徳科を要した学校の教育活動全体を通じて道徳教育に関する具体的な手立て ・全学級が道徳科の授業を年1回以上公開する。 ・道徳科授業の中に児童がもつ問題意識や日常の問題について意識して取り上げ、日常の道徳実践力につながるような工夫・改善を行う。 ○いじめの早期発見・早期対応に努める ・5月に記名式アンケートを実施し、12月に無記名式アンケートを行い児童のSOSを引き出す。 ・毎月「いじめ防止対策委員会」を開き、積極的ないじめを認知し、共有した情報をもとに組織的・継続的
下半期 ○学校保健委員会にて年間を通じて『メタ認知』について取り上げる。 ・メタ認知の方法やしつけを知った上で、あくわっ子に適した取組を探り、実施する。 ○人権週間の中でも、(外部機関との連携を行いながら)『メタ認知』の取組を深める。 ○YPAアセスメントを実施し、児童の実態・変容をつかむ。 ・11月に第2回のアセスメントを実施する。(あくわ博の後) ・横浜プログラム実施の際は、メタ認知につながる内容を意識する。 ○たてわり活動の充実 ・年間を通じてたてわり活動を実施できる計画を立てる。(わくわくあくわの日・集会・にこっど清掃・栽培活動など) ○道徳科を要した学校の教育活動全体を通じて道徳教育に関する具体的な手立て ・全学級が道徳科の授業を年1回以上公開する。 ・道徳科授業の中に児童がもつ問題意識や日常の問題について意識して取り上げ、日常の道徳実践力につながるような工夫・改善を行う。 ・道徳教育について、学校だより・学級だより等で地域や家庭に発信していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校保健委員会や保健集会、食育などを通して、保健への関心を高め、家庭の協力も得て、よりよい生活習慣の育成や改善を図る。②年間を通じて縄跳び運動を取り組み、運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、向上心や粘り強く取り組む態度、運動の技能等を養う。縄跳び運動を通して、児童の自己肯定感を高める。
担当	保健部・食育部・体育部

健やかな体に関わる本校の状況
<p>(1) 健やかな体に関わる児童の実態 令和4年度の横浜市体力・運動能力調査の結果から、どの学年でも「反復横跳び」や「長座体前屈」、「上体起こし」、「握力」は市平均や全国平均並みであるが、「立ち幅跳び」「20mシャトルラン」「50m走」など走・跳の運動や、「ボール投げ」が課題として挙げられた。 また、生活実態調査の内容は、大きく市平均を下回る傾向にある。そこから、運動習慣や生活習慣に課題があることが考えられる。生涯スポーツにつなげるためにも、運動の楽しさを感じられるようにする必要がある。</p> <p>(2) これまでの学校の取組状況 令和4年度は、縄跳び集会用を月1で計画し、年間を通じて縄跳びに取り組んできた。体育の授業時間だけでなく、休み時間や朝の時間にも縄跳びに取り組んだことで、体力向上や運動への意欲を高めることができた。 また、学校保健委員会では「ぐーべたびん」を合言葉に、自らの姿勢を振り返ったり、正しい姿勢を意識できるように正しい姿勢週間を設定したりするなど、正しい姿勢で生活をするように年当初から取り組んできた。年度当初と比べ、「ぐーべたびん」を意識した姿勢で学習に取り組む児童が増えてきた。</p>

今年度の目標
運動や健康の大切さを意識して、友達とともにすすんで運動にかかわり、体力を高めて健康に生活する子どもの姿をめざして

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○体力向上に向けて ・昨年度の成果をもとに、今年度も年間を通じて縄跳び運動に取り組む。体力向上を図っていく。 ・楽しみながら自分の成長を実感できるように縄跳び集会用を設定し、運動することや縄跳びに意欲的に取り組めるようにする。 ・自らの課題解決に向けて進んで取り組み、自信をもって挑戦する態度を育てるために「縄跳びチャレンジカード」を作成し、活用する。 ○運動への楽しさに向けて ・たてわり活動を生かして、異学年と体を動かすことの楽しさを感じることができるよう、チャレンジフェスタでたてわり競技を設定する。 ○心身の健康に向けて ・学校保健委員会を中心に、メタ認知について児童に適した取組を探り、実施することや年間を通じてふわふわ言葉について学び、ふわふわ言葉を使うと自分や周りの人の心に良い影響があることを知ることで、自己の感情や行動を統制する力やよりよい生活や統合後を想定した人間関係を自主的に形成する態度を養う。 ○日常的な健やかな体にかかわる取組を、学校だけでなく家庭や地域に発信する。 ○体育科指導の充実に向けて ・模範授業を行い、異学年の友達とかかわりの中で運動することの楽しさを感じることができるよう単元やグルーピングの工夫をしていく。 ・振り返りカードを活用し、自分の目標を設定して活動できるようにしていく。
下半期 ○体育的行事の充実に向けて ・区域交流会に向けて、一人ひとりがめあてをもって練習やゲームを行うことにより、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また、各試合における選手相互の動きを見合いながら、互いのよさを認め合うとともに、サッカーについての知識やマナーを身に付けることができるようにする。 ○継続的な体力向上に向けて ・自己を向上させる精神や粘り強く取り組む精神を高めるとともに、挑戦することの楽しさを感じることができるよう、縄跳びの練習を授業の3分間や中休みのチャレンジタイムに取り組んでいく。また、意欲的に取り組んでいくために、教師だけでなく子ども同士でも、声掛けや励まし、アドバイスを伝えられるよう指導・支援をしていく。 ○継続的な健やかな体づくりに向けて ・学校保健委員会「心」について取り上げ、年度初めからの実態やこれまでの活動の成果と課題を全校で確認し、さらに正しい姿勢を意識できるような活動や企画を健康委員会を中心に検討し、実施する。また、日常的に姿勢が悪くなると起こる影響や正しい姿勢を意識できるような掲示物も校内に貼り出すようにしていく。